

# ‘はかる’ 科学の真骨頂を発信しつづけます



上 本 道 久

本会機関誌「ぶんせき」編集委員会では様々な企画記事を作って誌面に提供していますが、特定のトピックスについて集中的に掲載する特集号（例年10月号）でもより社会性の高いトピックスに傾注しており、昨年は「公正と安全を守る分析化学」というテーマで社会の維持や国民の安全・安心に貢献している分析化学の最前線を取り上げました。核物質、化学兵器、ドーピング、危険ドラッグ、救急や法医学鑑定、急性中毒などを取り上げ、対象物質が科学的に安全でかつ市民に安心されるための専門的活動について紹介しました。本トピックスは、続けて本年度の日本分析化学会第68年会でも特別シンポジウムとして取り上げられることになりました。6名の招待講演者が熱弁をふるわれるものと期待しますが、本シンポジウムは公開であり、学会に参加登録しないどなたでも聴講できる予定です。また、昨年より次の新しい誌面企画を立ち上げました。「ぶんせきの泉—ぶんせき Q&A」という、分析化学の周辺領域で発生する分析ニーズやトピックスを共同執筆で Q&A 形式でつづる項目と、「創案と開発—先端機器開発」という、分析機器に関するオリジナルデバイス・ユニット・ソフトの開発にまつわるブレークスルーや開発秘話を解説する項目です。

分析化学は、‘はかる’科学としてほぼすべての技術領域と関係します。物質をはかる方法を構築するという一見地味な研究領域が、材料創成、微小部品から建築構造物までの大小製品開発、環境動態解析、臨床化学など社会を構成する必須の技術を支えます。また上記の安全や安心を担保するためにも国家の基盤技術としての分析技術が欠かせません。

本誌はこれからも様々な新企画記事や話題性のあるテーマを掲載し、分析化学の重要性と普遍性をより多くの方々にアピールすることで、‘正しくはかる’ための技術開発への理解と普及啓蒙に努めて参ります。

[Michihisa UEMOTO, 明星大学理工学部, 「ぶんせき」編集委員長]